

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立美保関中学校）

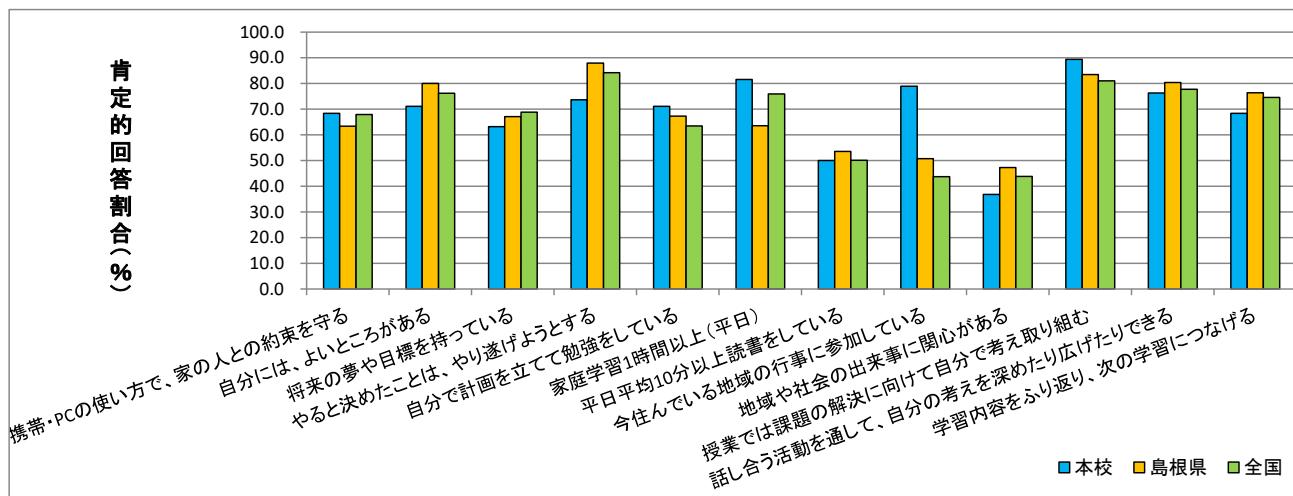
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
国語	●国語への苦手意識が強く、記号で解答する問題でさえも無解答が多い。 ●語彙力の少なさがうかがえる。これは、活字に触れる機会が少ないことに起因するのではないか。 ●基礎的なドリル学習や反復学習が定着しづらい傾向にある。家庭学習の習慣が身についていないことに起因するのではないか。	・図書館の継続的な活用を目指し、図書館教育の充実を図る。 ・辞書や資料を活用した授業をしき、語彙を広げ、多くの情報に触れ、正しく読み取って活用する場面を多くする。
数学	○定理として理解すべき事象を、きちんと記憶することができておらず、真面目に授業へ取り組んでいることがうかがえる。 ●文字を含む一般化・抽象化された課題に対して、操作することが苦手である傾向が見られる。	・授業において、記憶している原理や原則を活用する場面を多く取り入れ、活用能力を高める。 ・文字が含まれる課題等に、定期的に取り組む活動をしきみ、作業の習慣化をする。

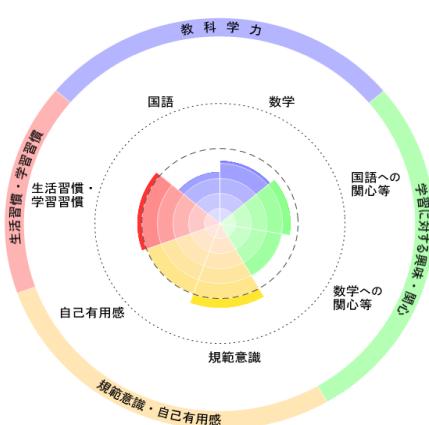
(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
	○生活習慣に関して、高い意識を持って生活している。特に、規範意識や他者を思いやる気持ちについては、思いだけでなく実践ができている。 ●家庭学習に対する生徒自身の意識と、実際に行動として表れている事象との差がある生徒が多いと感じる。	・授業に向かう姿勢は概ねよいので、学習内容を定着できる取組を仕掛けていく。 ・具体的な家庭学習の方法を提案し、将来の夢を実現できる力を身につけられるよう支援する。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・全学年数学の授業において少人数による指導を行い、きめ細かな支援を行う。
- ・高い規範意識を今後も継続できるように、授業の終始や学校生活で支援を継続していく。
- ・生活習慣や学習習慣については、高い数値を表してはいるが、生徒自身が実感していることと教員が感じている事象との間に差があるので、客観的に自己を振り返る活動を取り入れていく。

【受検者数】 36名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。